

第一篇 新たに生まれる真理

19

新たに生まれるあなたの自覚

自覚に伴う生活の革新

“神の子”は神らしく生活せよ

永遠の価値を求めて

ルールドの聖泉の奇瑞の秘密

新たに生まれるとは天地一切のものと共に自己が天上

天下唯我独尊の自覚を得ることである

神は宇宙に満つる靈的光である

“心の窓”をひらいて“光”を見よ

色いろの宗教はこうして生まれた

万教の発する本源の光の中に浴せよ

悟りが向上するにつれて見る世界が変ってくる

“実相は実なり”

宇宙の実相は妙法界である

この宇宙は如来の真理の脱法の展開である

宇宙創造の根本構図は中心帰一である

大日如来の中心宝座としての日本国

占領軍の謀略で洗脳された日本人多数

利己主義を以って民主主義と詭弁

神の肖像たる人間は完全である

人間よ、想念の自由を濫用する勿れ

る

病氣も不幸も神の創作ではない。人間の自由制作であ

“今”の一瞬を悔いなく生きよ

あなたに悪しき遺伝などは無い

新たに生まれるということ

人間の二つの面あなたはどちらに振り向くか

実相を瞑想して悪しき遺伝を否定せよ

一切の衰積と沈滞とはフィクションである

落葉と見える中に本当は百華爛漫が既に隠れているの

である

“死は無い”し“老も無い”

愛の実践はあなたに長寿を約束する

自己を青年と描いて自己を凝視せよ

第二篇 神想観の神髄

47

神は今此処にあり給う

謙遜と自覚による高揚

神への聖なる憧れ

聖なる追求とその彷徨

神を全身全霊をもって体感するには

既に迷いなく既に完全である

既にある完全の世界の扉を叩くこと

「内なる無限」から求めよ

天国を受くる者は「幼児」の心を持つ者である

神想観は自力の行ではない

内部的「生まれ更り」

神想観の本質は唯「神」を素直に受けるにある  
唯、神と神との触れ合いが本当の祈りである  
純粹の神想観について

神は常に御業を成したまう  
病氣や貧乏をなくするには

自己の神性を自覚する近道

唯、神のみに心を振り向けよ

人間の本質は久遠不滅である

「内なる神性」の聖なる催し

肉体的傲慢の破壊について

現象的なものに頼ってはならない

自我を完全に打ち摧くこと

神想観と欠乏観とを間違えてはならない

霊の網をひろげること

今、此処、久遠の自覚

自己の内なる「神の国」をひらくこと

悟りは自力で得られるのではない、神の恩寵による

内在の神を目覚めしめるには

### 第三篇 天地に満つる吾が生命

「はじめにコトバあり」ということ

人間は超時空の神が時空の世界へ投影せられた神の肖

像である

天地は失せん、されどわが言は失せず

各人の性格はこのようにして形成せられる

性格形成途上の幼少年の教育

70

国家に国民の教育権がある理由

国民をバラバラに不統一にした占領憲法

各々個性を發揮しながら全体が調和するには

私欲優先の業因をつくってはならない

業力に翻転せられないために

汝ら「業」の奴隷となる勿れ

業の強制力と闘う人間的努力

「罪」の奴隷として自由を奪われた人間

実相の善の発露を妨げる業の集積

パウロの自己分析

「本当の自分」は常住汚れなきものである

一躍超入、常住蒼空の世界

パウロの心境と親鸞の心境の一致

因果の法則を利用して因果を超える

小善を毎日積む功德について

ただのみの実相を観る修行を継続せよ

あなた自身が永遠者である

自分自身が永遠者である

人格の向上について

ヨガは説く「人間の本性は超時空で無限である」

去来なくして去来すること

神の名を呼んで人類意識を超越すること

神の名を呼ぶことの重大さ

人間は既に神の子にして寿命無限である

自他一体の自覚を愛行によって深めること

霊はコトバによって自己限定して創造を行う

地上生活は魂の学校である

自分の魂に燈が点れば周囲が明るくなる

こうしてあなたの魂の燈をとぼせ

神と惜にありて仕事をせよ

今日いちにちを神と偕に出発せよ

悪評や批難に心を動揺させるな

変化の中に機会がある

流れに沿って生きる智

詩 “光は暗を消す”

未知の世界には宝庫がある

すべての困難を栄養に変える詩

今・此処を大切に

愛は相互である

互いに半身の愛を歌う

端坐して実相を想う

ゆたかに時間と能力とを得る祈り

祝福する者が祝福せられる

人間の魂の重心は神である

与えると受ける

孤独感を克服するには

環境はその人の心の顔

困難の急流を漕ぎのぼりて

問題解決の鍵

“過去”を“今”に変貌するな

あなたの生命に “自覚” の燈をともせ

秩序と人間の自由

自縄自縛じじょうじばくの迷いから脱却せよ

仰いで高き蒼空を見よ

『甘露かんろの法雨』の由来

神癒しんゆこうして起る

第五篇 “実相の人間” と “仮相の人間”

— その関係 —……………

罪の本質について

罪はどうしたら消えるか

神想観の本質について

神さまと人間との関係

再び神想観について

医師で治った病気は再発するか転移する

神のつくった人間には本来 “病気” はない

肉体は心の状態が象徴的にあらわれる

“悲しみ” が病気になる過程と機構

夫婦間の感情のモヤモヤは性器の病とあらわれる

すべての境遇・環境は魂をみがく “場” である

魂の研磨の修行を完了したら新しい境遇に出る

夫を観音さまの示現と拜んで囊腫のうしゅが消えた

神経痛の婦人の精神分析

内攻する心の痛みを解消するには

内攻する憎しみの焼去によって神経痛たちま忽ち快復

浄心行の由来と成果

癌腫も肉腫も心を一変すれば治る可能性がある

三年も治らない中風の精神分析

脳充血から来た中風の医者の説明

里見司馬太君、医博を嗤う

指関節不随の精神分析

住所不明の人と心の世界で和解する法

肉体は単なる物質ではない

人間の体は肉体だけではない

本体の中に全てがある、本体が実相である

霊体及び幽体について

地球のエーテル体と原子爆発の影響について

原子実験と教育の問題

心霊学と心理学との連関

潜在意識の働きについて

## 第六篇 潜在意識の不思議な力

潜在意識の微妙にして広汎なはたらき

現在意識と潜在意識との関係

過去の医学の業績について

人間は精神と身体と両方だという医学

163

胃潰瘍等も“心の病気”

神経痛たちま忽ち快復

ストレスというもの

ストレスを消去する方法について

感謝の念はストレスを解消する

このように考えて“憎しみ”を感謝に一変する

アメリカに於けるある学用患者の実験

夫婦になる男女は互いに魂の半身である

神話の本質について

ギリシャ神話に於ける夫婦観

ユダヤ神話に於ける夫婦観

夫婦は決して「合わせ者・離れ者」ではない

嫁・姑の憎み合いはこうして解消する

継子と本子の家庭紛争

子供は親の心の影

“母”なる理念を継いで“母”の座にすわる時彼女は  
本当の母である

生長の家は物質的肉体の外形を視ず、内在の理念を観

内ない翻ほん足そくの子供は治った

「汝は真理を知らざるべからず、真理は汝を自由なら

しめん」

子供の病気は神さまからの電話である

真理を知って心を改めると毛深い体毛が消えた

真理の思念は距離の制約を超える

肉欲の悩みは肉体の腐爛する病氣として現れる  
読めば病氣が治る本だと友達は言った  
なるほど読んでいると痛みが消えていた  
首切り傷の“心の原因”が判明した  
三角関係を解消する神想観での念じ方

## 第七篇 愛の実践と人間の運命

192

“愛”と慈悲とについて

他の人の繁栄や好運を喜んであげるのがよい

“心の角”をなくして“暖かい心”をもて

自他渾融の愛になつて

純粹の愛は人を動かすのである

“真実の愛”は不幸の人を憐むことではない

愛は相手の実相の完全さを見る

悲しみの奥に“神の故郷”がある

魂の故郷に帰るとき

人間の深層に秘められた宝

人生は工夫と努力の持続の学校である

人間は自己の人生劇の主人公である

苦行も快樂も人生の目的ではない

魂の向上と進化の意味するもの

自分の人生は自分の作品である

よき人生をつくるためには“心の法則”を知らねばな

らぬ

好運のチャンスは自分がつくる

幸福を得るための三つの原因

三業を希望成就の目的に集中して  
憐憫や同情と、事業の推進とを混同してはならない

“神を愛する”ということ

尊敬を通して愛し合うこと

世界に平和をもち来す道

黒人も私たちの兄弟である

あなたが何事にも成功するためには

僥倖ばかり願つては一つも幸福を捉えられない

失敗と見える事物が幸福の入口になる

世界最大の根本ウソは何か

“根本無明”から目を覚ませ

盤珪和尚の不生禪

実相は明鏡、迷いは映像、明鏡上の影、本来無し

## 第八篇 人生を幸福にする愛と智慧

215

一切皆善の真創造の世界を觀よ

二元的人間の出現

迷いはして何処から来たか

蛇の知恵にだまされて

何故、贅沢な老人ホームに住む老人が自殺するか

人は“愛”なくしては生きることを拒む

愛のない世界は親から離れた孤児の世界である

こうして人間は樂園から追放される

現象的善悪の世界を超えて

存在の根元に躍入すること

感謝する者に対して祝福の扉はひらかれる

現象の勝敗に一喜一憂すること切れ  
現象の雲を吹き払うこと

“過去の失敗”を直ぐ心から放つこと

貞操とか純潔とかは何を意味するか

幸福は自分の心の中から出て来る

あなたの気持が晴れない時

こうしたら心が明るくなる

空手還郷・七宝充滿

あなたの業は神観で必ず消える

あなたの過去の悪業を消すには

あなたの希望は行動によって実現する

愛行が希望実現のキメ手である

家庭を天国浄土にする法

“与える愛”こそ愛を完うする道である

あなたの間関係を根本的に良くするには

自分を尊敬し、自分の過去を赦すこと

汝の「内部の人」を見よ

“神の義”を求めよ

母親は鬼子母神になつてはならない

正法に帰依した鬼子母神

## 第九篇 万教ただ一つに合奏す

心の把手を握って運命を回転せよ

すべては「心」の問題である

向わんと擬すれば却って乖く

日常生活の事故はどうして起るか

240

万教たがい手を繋ぐこと

宗教の根本原理は一つである

病いを癒やす“根本”は一つである

万教歸一の真理

法華経は万教歸一を説いている

何故、私は万教歸一を説くか

神われに語りたまう詩

悲しみの奥にも神は慰め給う

「悪」は本来存在しない

希望を実現に搬ぶ両輪

すべての“神の子”なる兄弟を祝福せよ

神の声をきくには心の緊張をなくして

自己の“心の型”を反省して改めよ

コトバの力を積極方面に活用せよ

生活の“場”の不調和を消すには

“不調和は既に消えたり”

神の国の富を現実化する祈り

ただ「善のみ実在す」と信じて生活せよ

変転する社会状態に処するには

食物を靈化するための祈り

あなたの職場を地上天国にせよ

われら神の遺産を譲り受けて

突如何か異状を覚えたとき

神は如何なる難問をも解決し給う

躓つまずいた事業を興隆するには

常に神一元・善一元の世界を觀る

神を金融業者と間違えてはならない

霊か、物質か、いずれを選ぶか

天国を地上に実現するには

戦争は「心の状態」の投影である

世界平和のための祈り

“儲け”ないで“儲かる”方がよい

「祈る心」と「念仏申す心」

人間は肉体の自力によって救われるのではない

神、汝の実相に触れ給う

肉体的自覚の外皮を脱ぎ棄てること

神想観を繰り返して「自覚」

覆土を排除することによって新芽は伸びる

何故、現象界の処置が必要であるか

実相の顕現としての幸福生活

脚下にしっかりと実相を踏んまえて

悪しき存在はすべて迷いの影である

馬を“宝の車”の後につなぐ勿れ

私たちは自己の運命の主人公である

自己の自覚の程度の投影としてのその人の現実生活

誰かに役に立つ事をせよ

あなたの生活を天国生活にするには

祈りの方法及び意義について

天国を地上にあらわすためにあなたの心を調律せよ  
神が唯一の創造者である

如何にして現象界に不調和があらわれるか  
神の智慧のままに生活する者は幸いなるかな  
我みずからにては何事をも為し得ず

自己に宿り給う神を悦ばすこと

一切万事、神より来る、唯感謝あるのみ

すべての人種は悉く「神の兄弟」である

天地万物相互礼拝相互感謝の生活

### 第十一篇 われ龍宮城に立ちて想う

われ龍宮海に帰還して遊ぶ

塩椎神の由来

住吉大神の由来について

肉体も環境も自心の反映である

わが計画は“神の計画”と思つて自信をもて

大生命の流れに沿つて生きること

あなたいそがないで“イライラしないで”

仕事を完全になすためには

あなたは決して孤独ではないのである

放蕩息子の譬えについて

愛語・讃歎は天国を実現させる

不調和・不完全は実相でなく仮相である

あなたの運命はあなたの好みに従つて

愛は生命を悦ばせ癒力を發揮する

真理は汝を自由ならしめん

自分の能力を自己限定してはならない

愛の実践と生命の歓喜

「悪」があらわれて来たとき如何に対処するか

あなたの運命と健康を良くするために

迷夢を醒して自己解放を遂げよ

自己解放の喜悦を語る

宿命も悪業も暗雲も本来ない

神の方に心を振り向け善きアイデアを受信せよ

直観によって実相を把握するには

超次元の神の智慧を喚び出せ

人間が方向を失った時神は方向を示し給う

成功に対して自覚を深める言葉

集団祈願と隣組の協力

真理は単なる抽象的法則ではない

今此処に龍宮城現前す

## 第十二篇 “神の国”を地上に顕わす道

320

あなたの人生を“神”の基礎の上に築け

就寝直前の神想観

神演出の人生劇に出演して

現在従事せる仕事に感謝せよ

類を以って集まる

みとめたものが顕れる

神の国を現象化するための言葉

あなたの内在する“天の父”について

あなたの自然良能を旺んにするには

生命と肉体とは一元である

神想観を通して自己の本源を自覚せよ

キリスト教と仏教とは一致する

あなたの内に“無限”がある

内在“無限の資源”の門を叩いて

無限大のガス・タンクの栓をひらくこと

問題を処理するまでに、神に心を振り向けよ

恐怖心のある所に不幸は来る

恐怖・不幸の悪循環

本来完全なる実相世界のみの存在を知ること

旧約の“エホバ神”とは“心の法則”の

擬人化である

自己の内にエホバは在る

小我と大我と一致せしめて行動せよ

毎日毎日が勝利の生活となるために

自己内在のキリストを礼拝せよ

“神の子”があなたに新たに降臨する日

“自覚”と“生活”とは表裏一体である

生活の不調和を調和ならしめるには

愛は実践を伴わねばならぬ

自己にキリストを降誕せしめること

あなたの実相は“無原罪の受胎”である

全ての把住を放ち去る日